

山行報告

■春の槍ヶ岳

〈アルプ山行〉

●日 程：5月14日(火)～16日(木)

●参加者：L竹内 SL三木(悦) 松下

●行動記録：

(14日)高砂阿弥陀 4:00 発—アカンダナ駐車場(8:50 着)9:20 発—上高地バスターミナル(9:55 着)10:13 発～明神(10:57 着)11:05 発～徳澤園(11:45 着・昼食)12:15 発～横尾(13:23 着)13:40 発～一ノ俣(14:35 着)14:40 発～槍沢ロッヂ(15:25 着・泊)

(15日)槍沢ロッヂ 6:05 発～ババ平(6:55 着)7:05 発～水俣乗越分岐下(7:40 着)7:45 発～天狗原分岐(8:50 着)8:55 発～グリーンバンド(9:50 着)10:20 発～槍ヶ岳山荘(13:03 着・泊)

(16日)槍ヶ岳山荘 7:00 発～槍ヶ岳山頂(7:25 着)7:30 発～槍ヶ岳山荘(8:15 着)8:40 発～ババ平(10:25 着)10:30 発～槍沢ロッヂ(11:00 着・昼食)11:40 発～横尾(13:08 着)13:25 発～徳沢(14:20 着)14:30 発～明神(15:10 着)15:20 発～河童橋(15:55 着)16:00 発～上高地バスターミナル(16:03 着)16:30 発—アカンダナ駐車場(17:01 着)17:10 発—平湯の森温泉(17:20 着)18:10 発—高砂阿弥陀(23:35 着)

◆再びの槍ヶ岳・汗と涙と感動の3日間

三木(悦)

数年ぶりの春山である。アルプスの春山はリスクが高く、参加を迷ったが雪山経験豊富な、お二人なので心強く思い参加することにした。山行日の天気あまり良くないので準備に気が進まない。14日登山口は雨、気温8℃、風速5m/s、山頂は雪の予報、天気図では大きな崩れはないが行動中は雨と・・・メンバーからも情報が入る。気象情報を共有しながら様子を見る事に。13日午後発表の登山指数は14日B、15日、16日Cの予報、風は弱いので取りあえず決行。リーダーからGOのサインが出たので、装備をチェックしながらパッキングを始めた。

14日、早朝出発、空を見上げては山行モードに切りかえる努力をする。上高地に着いたら案の定、雨が降りだした。雨具を着て出発、観光客で賑わう河童橋を抜け、きょうの宿泊地・槍沢ロッヂを目指す。途中オシャレな徳澤園でお腹を満たし、又ひたすら歩く、歩く、歩く。横尾を過ぎると道が徐々に傾斜する、一ノ俣からは雪道だった。雨と汗の濡れた身体で、ほぼ予定の時間に槍沢ロッヂに到着。ロッヂのお風呂を楽しみに歩いてきた。お湯の恩恵にあずかり冷えた身体を温め、明日への不安と期待を抱え20時30分消灯、就寝。

15日、4時起床、なんと晴れている！5時、朝食をしっかりと取り6時5分出発。いざ「槍」を目指せ！ヘリポートの木々の間から「槍」の穂先がはっきり見える。きょうは出だしから雪の登山道となりハードだ。春山とはいえ槍沢コースは残雪が豊富、雪山の領域であった。天狗原分岐まではまあまあの歩調で進んで行く。グリーンバンド辺りで大休憩を取り、リーダーがコー



ヒーを入れてくれた。
青空を突く「槍」を見ながら至福のティータイム。ここは標高2,609m、山荘迄あと約460mの登りである。アイゼンを装着して1時間強、歩を進めた。
殺生ヒュッテを右に2,856m地点でも一休み。ここから、とてつもない登りが始まる。1歩々足を運ぶのがやっとなり、3人は2

0歩進んでは止まり、30歩進めば止まる歩行となった。Mさんいわく牛歩である。目の前の「槍」に中々近づかない。気持ちは半ば投げ「ヤリ」になる。赤布の竹はどこまで続くのか・・・1本々引き算しながら歩いた。13時3分やっとの思いで槍ヶ岳山荘へ到着。ベンチでひと息入れていると、登るのですか？と小屋関係者に声をかけられた。空を見て雷雲です。中で情報を得てからにして下さいと言われた。安全を優先に、今は登頂を断念することにした。ホッとしたのは私だけだろうか？

談話室で疲れた身体を休め、17時の夕食までゆったり過ごした。宿泊客は私達を含め5人、2人の男性はそれぞれ単独行、槍沢ロッジをほぼ同じ時間に出たので参考までにタイムを紹介しよう。46歳の方は10時半に槍ヶ岳山荘に到着、既に穂先に登り終えベンチで食事をしていた。もう1人、60代後半の方は私達よりずいぶん遅い到着だった。やはり若者の筋力はすごいと思った。5人で談笑しながら夕食のひと時を過ごした。18時頃、「槍」の穂先が夕日に照らされて綺麗！昼間のような明るさだ。今なら登れる？登りたい！と思った。でもアルコールが入り“いい気分”となっている。穂先は明日へお預けとする。

16日、5時起床、晴れ、-2℃、6時朝食、7時穂先へトライ。ルートの数ヶ所に雪だまりがある。掴む岩は凍っている！滑ったら落ちる！アイゼンの前爪を蹴り込み、ちゃんと止まるか確認しながら足を運ぶ。最後のはしごは9m31段、6年前、夏に登った時よりとても長く感じた。頂から声が響く。私は1段々焦る事なくしっかり登ることにした。ルートも頂も「穂先丸ごと」3人で貸し切り状態だ。これが春山の魅力のひとつでもある。静かに、しばし景色に見惚れる。3,180mの「てっぺん」から360度の景色を堪能した。

さあ、登れば下りが待っている、大きく深呼吸してゆっくり慎重に下りた。1時間15分の「穂先トライ」が終わった。

8時40分山荘発、下山。雪渓をどんどん下り槍沢ロッジで昼食の大休憩を取り、再び上高地へ戻ったのは16時、もうへとへとだった。

春山の魅力は危険と背中合わせ、体力も経験も乏しい私には厳しい山行だったが、新たな経験が積めた。無事終える事が出来お二人に感謝します。竹内さん、松下さん感動をありがとうございました。この報告を纏めながら今、春山の余韻に浸っている。

■書写山・鯉尾坂から山頂へ たっちゅう じゅうりょういん (塔頭・壽量院で精進料理を)

- 日 程 : 5月15日(水)
- 参加者 : L佐々木 SL安田 有本 上田 狩集 川上 笹木 澤田(律) 砂川(美) 田中(重) 田中(美) 田中(由) 徳本 苦瓜 廣岡 福田 村上 山下(純)
- 行動記録 : 姫路駅北 8:20 発—新在家(夢前)バス停(9:05 着)9:15 発～登山口(9:20 着)9:30 発～三角点分岐(10:30 着)～書写山三角点(10:40 着)～三角点分岐(10:50 着)～仙岳院(11:05 着)～大講堂・食堂・常行堂(11:10 着)11:25 発～摩尼殿(11:30 着)11:45 発～壽量院(11:55 着)13:50 発～ロープウェイ山上駅(14:15 着)～登山口(14:50 着)

◆新緑の書写山と壽量院の精進料理につられて

山下(純)

令和元年5月15日快晴、さわやかな朝。

姫路に住んで46年、バスで姫路の北へ向かったのは初めてで、うきうき。知っている景色もバスにのって見ると新鮮です。新在家でバスを降り、鯉尾坂登山口より、リーダーを先頭に黙々と進みます。スグに立ち止まりました。何でしょう、、、蛇が青ガエルを啜え、どうしたものかとびっくりしています。用心して進むと今度は黒っぽい蛇!(まむし)?とにかく用心。暑くなってきましたが、木立の中を歩くのでさわやかさも足り足は進みます。やがて、参道のような道を進むと三つの堂に出て書写山円教寺。姫路の宝です。



丁度時間となり壽量院へ。書写塗りの器でご馳走が並んでいます。まずは乾杯!お疲れ様、いただきます。並んでいるだけでも一杯なのに、次々と運ばれてきます。残すのはもったいないので、はち切れそうな胃袋に全部収めました。よい時間を過ごし、壽量院を後に下山。下につくとお腹もちょうどいいあんばいにこなれているような。やれやれと思って前を見ると数少ない姫路駅行のバスが通り過ぎていく。ああ、残念。

次のバス停まで歩きましょう。なごやかな山行でした。皆さんありがとうございました。

*塔頭・壽量院の精進料理

精進本膳料理を幻の書寫塗り漆器で提供「圓教寺行事記」中の料理基本を現代風にアレンジしているとある。

■氷ノ山 筍(スズコ)狩りを楽しむ

●日 程：5月17日(金)～18日(土)

●参加者：L砂川(延) SL垣内 内海 大谷 黒本 佐々木 高島 西川 矢根 和田

●行動記録：

(17日)JR宝殿駅8:13発—市川SA(8:45着)8:50発—買出し(10:00着)10:20発—氷ノ山スキー場(10:40着)10:45発～慰霊碑(11:05着)12:00発～氷ノ山スキー場・昼食(12:05着)12:35発～大段ヶ平駐車場(13:00着)13:10発～大町避難小屋(13:30着)13:40発～神大ヒュッテ(14:20着・泊)

(18日)神大ヒュッテ4:55発～氷ノ山山頂(5:25着)5:35発～神大ヒュッテ(6:05着)7:45発～大段ヶ平駐車場(8:25着)8:30発—村岡ファームガーデン(9:20着)10:00発～展望台駐車場(10:20着)10:25発～蘇武岳山頂(10:40着)10:55発～展望台駐車場(11:05着)11:15発—昼食・てっぺん(11:55着)12:45発—とがやま温泉(13:30着)14:30発—JR宝殿駅(17:00着)

◆氷ノ山山行

和田

17日は素晴らしい天気である。宝殿駅北に集合時間少し前に行った。会長運転のレンタカーで10人の山行である。



播但道→R9→氷ノ山国際スキー場と行って下車。まずは水だけを持って大谷の雪崩犠牲者の慰霊碑に参拝した。草原のスキー場を登って行くのだが私は最近の体力低下ですぐ息が切れてハッフハッフと最後尾でついていく。他の人には判るまいが死ぬ思いである。それでもやっと慰霊碑の場所に着いた。そこには碑があり、銅板に1977年1月26日の日付と犠牲者の名前、

年齢が刻んである。当時、砂川さんも捜索に当たられた由。急な沢筋である。斜面の雪が沢に集まり、そして沢を流れ下っただろうなと想像がつく。遺体はすぐ見つからず日が経って発見されたとのことである。碑に垣内さんが持参した花を手向けて駐車場に戻った。

樹の木陰を見つけて昼食を摂った。すぐ近くにロープで囲って何かを植えてある。コレナンヤロ?誰かがそれは“こごみ”やと教えてくれた。柔らかそうなみずみずしい葉である。それだったら食えるやろと思いかじってみた。少し苦みが有ったが調理したらうまそうである。

樹の下に(女物)?の靴が片方のみ、おいてあった。なんでこんなとこに?と想わせる。

さて次は神大ヒュッテ行きである。車に乗ってしばらく走り大段平の駐車場で下車し登って行く。今日は天気が良く他の人とよく行きかう。殆どが筍狩りの人達である。こんな状況だとこちらがヒュッテに荷を下ろして筍狩りを始める頃にはもう採りつくされているんじゃないかと気がもめる。やっとヒュッテに着き、リュックを前のデッキに置きすぐ根曲がり竹の藪にわけいった。密に茂った藪に分け入るのは大変であるが、採るぞと気は高ぶっている。

「そっちあるかっ!」と誰かの声がする。「ぼつぼつあるでえ!」と答える。10本ほど採って藪からでた。仰山採ったという気分である。

ベテランに言わせれば今年はまだ早いようだとのこと。今夜みんなが食べる量は十分ある。佐々木シェフ及び女性陣が晩飯の用意をしてくれた。ストーブに薪が燃え出した。

程よい時間になり料理ができてきた。豪華なステーキ料理である。ビールで乾杯、ワインとおいしい料理でわいわいと楽しい夕げである。ストーブの上ですずこを焼いて初めて食べた。この雰囲気が良い。

翌朝は4時起きで5時スタートで氷ノ山登山である。薄曇りであるが、しばらくすると東の雲が赤みを帯び、そして雲間から日が差し出した。鶯が鳴きだした。他の名を知らぬ小鳥のなきごえも聞いた。爽やかである。頂上には30分で着いた。記念写真を撮り下山開始、小屋には20分でついた。朝食を済ませて駐車場まで下山した。

帰りは皆さん運転手まかせのドライブである。道中は「ミステリーツアーやな」、「どこへ向かっているんやろ」、「・・・へ行ってるんやろ」だの、「ミステリーツアーも安いのはあかんで、やっぱり高いとそれなりの所へつれていってくれるで」と言っている。ミステリーの到達点は、温泉町の“春木そばてっぺん”だった。ここで十割そばを食べた。山間のソバ屋だが、昼食時には満席である。物知りのA氏はここもご存じだった。あとは入浴し、少し早めに帰った。気楽な楽しい山行だった。

■大和葛城山(959m)

＜女性委員会山行＞

●日 程：5月19日(日)

●参加者：L 瀧原 土井

●行動記録：ロープウェイ駅 10:30 発～登山口(10:35 着)～展望台(11:03 着)11:10 発～ダイトレ出合い(12:00 着)12:03 発～葛城山山頂(12:45 着)13:25 発～自然ツツジ園(13:30 着)14:00 発～櫛羅の滝(15:05 着)15:10 発～ロープウェイ駅(15:20 着)

◆葛城山のつつじを楽しむ

土井

女性委員会の山行というといつもは大勢の方が参加されているイメージがあるのですが、今回の葛城山はキャンセル等もあって二人だけの山行となりました。

近鉄御所駅への電車内は私たちと同じつつじを見に行くであろう人たちでいっぱいでした。

ロープウェイ駅への道も渋滞していて普段なら15分から20分ぐらいで行けるらしいのですが1時間程かかりやっと到着しました。ストレッチをしている時、下山してきた方から下りで滑落事故があったと聞いて、慎重に行かなければと思いました。私たちの昇る北尾根ルートはいきなり急な登りからはじまっていました。土が乾いて砂状になっていたので下る人は滑って怖いだらうなと思いました。最初は急登でどうなるかと思いましたが、途中は風が通って涼しく新緑の中を頂上まで気持ちよく歩けました。頂上付近になると多くの人で混雑していました。頂上では360度のパノラマの景色が楽しめ、広々としていてとても気持ちよかったです。そこでお昼休憩を取ってからつつじを見に



行くことにしました。丁度満開の時期で遠くから見ると辺り一面真っ赤でした。つつじ園をぐるっと散策して、道の両脇のつつじがトンネルのようになっているところを通ったり、下から見上げて上からとはまた違った景色を楽しんだり、見頃のつつじを堪能しました。

山行によっては、花の見頃の時期にちょっとずれたりすることもあります。今回の葛城山のつつじはまさに満開の一番いい時期に見ることが出来ました。

最初、今回の山行が二人だけと聞いたときは、中止にしてもらった方がいいかなとちょっと迷ったのですが、リーダーの瀧原さんに「つつじも見頃だし、がんばって行きましょう」と言って頂き、その通り見頃のつつじを楽しめました。結果的には混雑の中でサクサク動けて二人でよかったのかなあと思いました。ありがとうございました。

■宍粟50山と千町小屋

●日 程：5月21日(火)～23日(木)

●参加者：L上田 SL平井 阿部 泉 木村 藤原(浩) 村上 [1泊2日参加4名] 香川
田中(重) 田中(由) 中村

●行動記録：

(21日)宮山登山口 9:55～展望台 10:15～宮山山頂(10:35着) 10:55発～登山口 11:30—マックスバリュー買物—千町小屋

(22日)千町小屋 7:08～くじら石 8:00～国境尾根(8:17着) 8:25発～杉山分岐 8:54～杉山山頂(8:57) 9:14発～杉山分岐 9:25～段ヶ峰山頂(9:50着)～10:49～杉山分岐 11:21～大吶地蔵(12:17着)～千町小屋(12:46着)

(23日)千町小屋 7:00～笠杉山登山口 7:20～笠杉山頂上(8:15着) 9:00発～千町小屋(9:40着・昼食)～掃除～千町小屋 11:30 発



◆1日目・ヒルになやまされ宮山に登る

田中(由)

久々の泊まり山行に参加させて頂きました。

前日、午後からの大雨が当日には上がり出掛ける頃には登山日和になりました。「播磨いちのみや」に9時集合、それぞれ準備をして宮山Pへ移動。登り始めて暫くすると山ヒルが何人かの靴やズボンに這いつくばり、噛まれた人が2～3人私も気が付けばズボンに血が付着し足に

ヒルが・・・あわてて振り落した。展望台の辺りから急斜面で足元のヒルは気になるし息は切れるし、やっと宮山山頂に着く。山頂には城跡も有り見晴らしも良く風も爽やかでしたが腰も下ろせず、集合写真を撮り早々に下山している途中で蛇に遭遇し散々でした。2日分の食材をスーパーで買い込み「千町やけの小屋」へ向かう。早めの到着でゆっくりしたティータイムで楽しいひと時を過ごし、夕食もリーダーの乾杯の音頭で賑やかに盛り上がりました。澄み切った満天の星空を楽しみ心の洗濯ができた1日でした。皆さんお世話になりました。

◆2日目・緑風の尾根を杉山・段ヶ峰へ

中村

暖炉の火が消えたせい？夜中やや肌寒かった。でも、朝、目覚めてフロアに出たら、すでに暖炉は燃えていて、暖かくありがたかった。

この小屋は、山間にあるせいか、辺りは明るいけれど、朝陽がさすのはおそい。それでも、朝食のおにぎりに即席の味噌汁とサラダをいただき、準備をして、外に出ると、もう眩しいお天気になっていた。

今日は、杉山をトラバースして段ヶ峰を目指す。「しそ森林王国」と言われるだけあって、山はよく管理されている。田んぼのあぜ道のように、アスファルトの道路が植林された林の斜面を這っている。尾根に出ると、そこは宍粟市と朝来市と生野市の境の地。北の方向には見えなかったが、竹田城も眺められるらしい。転々と突き出た岩々の間を群生したどうだんつつじが広がり、「山上庭園」と名付けられていた。杉山山頂もかくれんぼができそうなこんもりとしたどうだんつつじが散らばっていて、とても美しい。

段ヶ峰山頂での昼食は、昨日、スーパーの買い出しで、それぞれがお気に入りを選んで買ってもらったカップ麺。コーヒー付。お湯を分け合って作ったのが、楽しかったです。昨晚の、メンバーと囲んだすき焼きや、2ピースずつ分けたピザといい、工面し分け合って食べる食事のおいしいこと。昨日から幸せ感どっぷり。

リーダーを初め、メンバーの皆さん、楽しい時間をありがとうございました。

◆3日目・眺め最高の笠杉山に登る

阿部

2泊組の7人となり、早目にシャワーを浴びて、ゆっくりした後、夕飯は、豆ご飯、麻婆豆腐(茄子入り)、餃子スープ、野菜サラダと盛りだくさん頂きました！！明日の為に、早く消灯し寝袋にはいりました。

朝食を、しっかり取った後、皆元気に出発しましたが、やはり、4人も帰られたので、先日と比べると、少し静かな登山に感じられました。思ったより早く頂上に着きました。頂上は、岩と石だらけで、かなり足場が悪かったのですが、何と言っても天気が良く、又眺めは最高に良くて、45分位いて、ゆっくり緑と美味しい空気を沢山頂きました。

下山は、一気に急降下、ゆっくりと足元を確認しながら慎重に下山しました。沢を渡る時に、私が足場の確認を少し疎かにした時に、沢の中に、ザブンと入ってしまうアクシデントがありましたが怪我も無く皆さんと一緒に下山出来ました。

お昼のラーメンとおにぎりを食べた後に、みんなで、清掃しましたが、男性の方々の、手早い作業には、びっくりさせられました。最後は、温泉で、ゆったり。ここでも新緑を眺めながらの至福の時を過ごしました。リーダーやご一緒させて頂いた、仲間の方々のお陰で、楽しい、山小屋体験ができました。ありがとうございました！！

■加古川ウォーキング そよ風のみちコース

＜女性委員会山行＞

- 日 程：5月28日(火)
- 参加者：L藤原(千) SL澤田(律) 阿部 垣内 田中(美) 田中(由) 苦瓜 橋本(万) 廣岡
- 行動記録：フルーツパーク駐車場 9:20 発～河川敷入口(10:00 着)～平之荘神社(10:50 着)11:00 発～法楽屋(11:30 着)11:35 発～フルーツパーク駐車場(12:00 着)

◆加古川ウォーキング・両荘を歩く

橋本(万)



真夏並みの暑さが続いた昨日までと打って変わって28日は朝から雨。午前中は持つと出ていた気象予報が外れて雨の中のウォーキングとなった。

さて、見土呂と言えばわが町きっての観光果樹園だが今の季節はちょうど何も無い時節で、玉葱がちょろっと置かれてあった。晴れておれば丘上の展望所に登り市内一望できたところだ。カップに着替えて、雨中もまた楽し、ということで加古川河川敷遊

歩道へと進んだ。加古川大堰で雨宿り休憩するもなかなか雨足が弱まらずコースを変更し、～長楽寺～長池をカットして平之荘神社～法楽屋(あられ製造販売店:は外せず!?)～フルーツパークへと戻ることとした。近道をする為に田んぼのあぜ道を進んだり、思いがけなく無人野菜販売所を見つけてどっさりリュックに買い込んだり、麦畑の面白い立て札を見つけたり、思いのほか平之荘(へいのそう)神社が立派で境内に能舞台があったりでなかなか面白いウォーキングとなった。

みとろフルーツパーク到着後、併設のレストランで昼食をとり何やかや言いながら温室を一巡りして帰ると雨はやんでいた。また楽しい仲間と楽しいウォーキングしましょうね。ありがとうございました。

かたむきやま

■傾山(1602m)九州 山頂からの大展望と美しい双耳峰

- 日 程：5月28日(火)～31日(金)
- 参加者：L砂川(延) SL佐々木 大谷 田羅間 待場 松下 三木(悦) 村上 安田
- 行動記録：
 - (28日)山陽高砂駅 16:20 発～JR 宝殿駅(16:35 着)16:40 発～六甲アイランド港(18:00 着)19:00 発
 - (29日)大分港(6:20 着)6:40 発一道の駅あさじ一九折登山口(9:20 着)9:50 発～観音滝(10:25)～五合目林道出合(10:50 着)11:00 発～九折越登山口(12:30 着)12:55 発～九折越小屋(14:20 着・泊)
 - (30日)九折越小屋 6:55 発～千間山(7:30 着)～後傾(8:40 着)～傾山山頂(8:55 着)9:40 発～坊主尾根分岐上(10:10 着)10:20 発～水場(10:50 着)11:00 発～分岐下(11:40 着)11:55 発～三ツ尾(12:15 着)～林道出合(13:30 着)13:50 発～観音滝(14:15 着)

～九折登山口(14:30 着)～豊栄鉱山跡林道終点 P(14:35 着)14:50 発一原尻の滝(15:30 着)15:40 発一道の駅あさじ(15:55 着)16:15 発一臼杵石仏入口(17:00 着)17:30 発一臼杵・湯の里(17:40 着・泊)

(31日)臼杵・湯の里 9:00 発一佐賀関港(9:50 着)10:00 発一国道九四フェリー三崎港(11:15 着)-伊予灘 SA(13:15 着)13:50 発一石鎚山 SA(14:20 着)14:45 発一与島 PA(16:10 着)16:25 発一JR 姫路駅(18:40 着)18:50 発一JR 宝殿(19:10 着)

◆さあ、九折越をめざして！

松下

5月29日、船の朝は早く、5時半から船内レストランでバイキング朝食をしっかりと食べて、穏やかな瀬戸内の船旅から山旅モードへ切り替える。大分港からR10～R422を経由して朝地町から登山口のある緒方町上畑へ向かった。道中の車窓から棚田や石垣造りの橋など、風光明媚な古き良き農村の原風景が楽しい。山間の道を進んで、豊栄鉱山跡林道終点の先にある貯水タンクの横へ駐車した。私たちの他に神戸ナンバーの車が1台、兵庫労山の4人パーティーの先行があった。

私たちはストレッチをしてから10時前に出発した。登り口辺りに400m(標高)という標識があり、直進して九折越コースの登山口を見送り、三ツ尾コースと分かれる林道まで沢の音を聞きながらしばらく登山道を歩いて行く。鉄橋をいくつか越え、歩き難いゴロゴロした河原や狭い谷筋のトラバースも慎重に越え、垂直に流れ落ちる観音滝が見えるスポットに立ち、出発から1時間ほど経過して緊張の連続の内に林道へ出た。この時少しほっとしたが、この時はまだ、なぜ、この山行で林道が選択されたのか分かっていなかった。この林道もくねくね蛇行していてしんどそうだなァ・・・くらいにしか考えていなかったのだ。

林道歩きは木々の若葉が初夏の日射しを遮って、ずいぶんと暑さが和らいだ感じだった。林道といっても、先の台風被害で折れた枝が散乱して荒れていた。岩崖崩れも数ヶ所あって、大量の岩石が道をふさいでガードレールを超えて盛り上がっていた。林道には数ヶ所、九折川へ流れ落ちる谷水もあって、最後の水場で少し遅い昼食をとった。そこから5分ほどで九折越コースと合流する5合目林道出合いに着いた。



朽ちかけた鉄梯子がかかっている、ここから峠への最後の急登の始まりとなる。焦らずゆっくりとルートを導くピンクのテープを目印に休憩を入れて登りきると、峠の九折越に到着。出発から4時間半足らず。計画が4時間なのでほぼピッタリ。

峠はテント場のような樹木のない広場になっていて、東の方には傾山がそびえている。ここから眺める傾山は岩山そのもので、その山容は北アルプスの屏風岩のようだ。

今夜の宿にお借りする九折越小屋はここから西へ少し入った木立の中に立っている。トタン屋根のしっかりとした木造の小屋である。昭和60年に大分県、日之影町、緒方町が建てたということだ。小屋は思ったより広く、とりあえず半分のスペースを確保し、ザックを置いた。その後、水汲み部隊と共同トイレ用の穴掘り部隊に分かれた。水場は峠から見立側へ5分ほど

下った処にチョロチョロの出水があった。トイレは穴を深さ30センチ位に二つ掘った。目隠しにはツェルトを使った。陽が傾いた頃、神戸のパーティーも無事到着してきた。この頃、鹿の群れが小屋の近くまで来たらしい。お茶を飲んで、後の楽しみは今夜の山食だけど・・・旬菜の豆ごはんに新玉ねぎスープ。皆で担ぎ上げた山食はとっても美味しかった。前菜のスルメと切干大根ゆず風味和えはシェフの十八番やね。あとは心地良い眠りを求めてシュラフへ入る。おやすみなさい、明日もがんばろう！

◆傾山山行・初めての避難小屋泊

安田

山行初日、いきなり財布を落としました。フェリーに乗船し、さて、夕食とビール！支払の時でした「あれ？」バッグ内をいくら探しても財布が無い！「落とした？」もうパニック状態で、右往左往しました。結局は次の日、車の中で発見できたのですが、今回、最初に学習。お金は分散で持参しないとイケません、何が起こるか判りません。

今回、私は避難小屋泊デビューです。三ノ峰山行で、テント泊は体験していますが、避難小屋泊は初めてです。シュラフと40ℓリュックを購入し、荷物の重さにも耐えられるように（事前トレーニングはしたつもり）して傾山を目指しました。

小屋に着くと食事の準備、水の確保、トイレ設置、等々、中々珍しく、自分の準備した食器



のなんと大きかった事！必要な物、不要な物、色々考えさせられました。緊張の為か夜は、お腹が調子悪くなるし、眠れないし、でした。あくる朝、会長から「眠れなかったでしょう、眠れなくても、体を横にして休める事が大事です」とアドバイスを受けました。

早朝に他のパーティーが出発してから起床。皆さん、準備の手際が良い。見様見真似で自分も食事、後片付け、荷造りと、先輩達についていくのに必死でした。そして、いよいよ出発です。

傾山山頂まで、約2時間位かかったでしょうか、天気も良く手前の後傾山では360℃の大パノラマで圧倒的な景色でした。そして次の傾山山頂ではゆっくり時間を取り、写真を撮った

り景色を眺めたりと楽しみました、次の下山の大変さを知らずに…

20分程下りだして暫くは緩やかだったのですが、次の三叉路で、下りが2コースに分かれます。優しい下りを選んでいるのですが、なんと厳しいコースでしょう！急斜面が連続で、岩あり、谷あり、倒木をくぐり抜けたり、乗り越えたりと足下や膝、お尻、腕などドロドロです。後で先輩に「こんなに服を汚すのは初めて」と話をすると、「山は汚れて当たり前」と笑われてしまいました。駐車場に着くと、全員、ホッとしました。嬉しかったです。全員、怪我も無く無事、下山出来た事が本当に良かったと感じました。思わず全員でハイタッチ！！

臼杵温泉のホテルへ入る前に「原尻の滝」と「国宝臼杵石仏」に寄って観光させて頂きました。これも、この山旅のスケジュールに入れて下さっていたのです。石仏は自然の岩（岩壁）に刻まれた仏群です。平安時代から鎌倉時代にかけて彫られたと書いてありましたが、圧倒されました。素晴らしい史跡を見学出来たと思いました。

ホテルはとても良かったです。温泉もお部屋もお料理も。会長、先輩の方々、この度は大変お世話になりました。そして、この山行をするにあたっての大変な下準備、有難うございました。今回は本当に色んな事を体験、学習をさせて頂きました。そして、楽しかったです！

■大山(弥山1709m)

- 日 程 : 6月4日(火)
- 参加者 : La 平井 SLa 赤木 小田(敏) 香川 河崎 高島 田中(重) 森本 矢根
Lb 木下 SLb 木村 泉 徳本 苦瓜 西川 野村 橋本(健) 藤原(浩)
- 行動記録 : 姫路駅 6:50 発—大山夏山登山口(10:00 着)10:19 発—五合目(11:30 着)11:40 発
—行者谷分かれ 11:49 発—六合目避難小屋(12:03 着)12:18 発—石室方面分岐
13:10 発—大山頂上碑(13:27 着)14:03 発—大山頂上避難小屋 14:12 発—六合目
避難小屋(14:51 着)15:00 発—行者谷分かれ 15:11 発—行者堰堤右岸分岐 16:06
発—元谷下宝珠越分岐 16:06 発—大神山神社 16:10 発—大山寺下 16:25 発—大山
寺南光河原駐車場 16:30 発—姫路駅(19:10 着)

◆伯耆大山山行に参加して

藤原(浩)

「大山、マイクロバス1台で行ければよいのになア」「もう2~3人勧誘すればOKなのだが…」「藤原さん行くよなア？」で参加することになってしまいました。でも大変楽しかったです。感想文記述者の付録つきだけは余分でしたけど…。

参加者全員のバス旅は快適でした。駐車場に着いて、記念写真を撮りました。10時20分頃に山頂を目指し、皆さん元気一杯で夏山登山道口に向かいました。

檜等巨木が立ち並ぶ道を登り始めしばらくすると、「阿弥陀堂があるよ」と言っていたら1合目でした。傾斜もきつくなった2合目あたりから、ブナ林の登りとなりました。

杉、檜等の植林が多くなっている山々も絶景ですが、ブナの純林は見るからに素晴らしい景観でした。

11時頃私達はまだ3~4合目付近なのに早くも下山されてくる人達に出会いました。

彼らは朝7~8時頃に登り始めたからとのことでした。5合目には「山の神さん」と言われ、遥拝所東の尾根から昇る日を拝んで登山の安全を祈願したという所がありました。8合目あたりは、「イワカガミ」の花が多く見られるようになり、9合目になると「ダイセンキャラボク」の群生地でした。

境港のある美保湾が一望できた山頂で昼食を食べました。山の崩壊が進んで立ち入り禁止の箇所があるのは残念極まりない現象でした。下りは予定時間を取り戻すかのような、又やけにヘリコプターが空中停止しているのが気になりながらの下山でした。今回山頂を目の前にしながら無念の意を決せられ途中でとどまれた人達と合流し、大山北壁の雄姿を後に全員揃っ





て、元谷登山道の方へ下山して行きました。行者登山口近くの山間で「マムシソウ」を見かけて、今年はマムシに遭遇しなければよいのと思いました。バスに向かう途中皆さん揃って大山参道市場へ．．．土産でもと思ったら、本日の成果を祝するかのよう、まずはビールと買いこむ姿を多く見かけられました。私もその中のひとりですが…。帰りのバスで、ヘリコプターの話が出て、「体調を崩された人が、ヘリで救護される所を眼の前でみた 初めてだったと…」。私たちのメンバーでなくて良かった

と胸をなでおろすことでした。高齢者の方が多く死亡を伴う交通事故を起こすニュースが報じられていますが、登山もその例で無いように感じられ、気を引き締めなければの思いがしました。ほぼ予定通りに無事全員が姫路に帰ることができました。

この度は私のわがままを通し過ぎる面が多々あって皆さんにたいへん迷惑をかけました。

深くお詫び申し上げます。企画頂いたかたその他色々な事でお世話してくださった方々仲間入りして頂いた方々本当に有難うございました。

■熊山(508m) ～麒麟ビール岡山工場・下山後ビールが待っている～

●日 程：6月6日(木)

●参 加：L和田 SL砂川(延) 河崎 木畑 佐々木 苦瓜 廣岡 舛賀

●行動記録：JR 姫路駅 8:01 発—JR 熊山駅(9:02 着)9:15 発～熊山登山口(着)9:18 発～東屋・展望台(10:20 着)10:30 発～熊山神社(11:10 着)11:15 発～休憩所(11:25 着)12:00 発～弓削下山口(13:20 着)13:30 発～弓削登山口(13:30 着)13:35 発～JR 万富駅(14:05 着)14:35 発—麒麟ビール岡山工場(14:40 着)16:20 発—JR 万富駅(16:25 着)16:34 発—JR 相生駅(17:17 着)17:19 発—JR 姫路駅(17:38 着)

◆「麦酒と山」

河崎

上郡駅を過ぎて間もなく、車窓のキャンパスのうえに描かれた新緑の小さな残丘の彩りが、風に揺られながら眩しいばかりの輝きを放っていた。

県北とちがい瀬戸内に面した岡山南部の山々は、波打つように低いゆるやかな起伏が丘陵地となって南西に連綿と拡がりを見せている。さえぎるものが少なく、夏季はうんざりするほど暑いが、一方で深くえぐりこまれた涼しげな溪谷を抱くのもこの吉備高原一帯の特徴である。熊山は、その高原の一構成といえる。

吾々一行は、JR 熊山駅から集落をすぎ案内板にしたがって山道にはいる。初夏の日差しは草木を萌え、梅雨前のじっとりとした気体の感触に汗がにじむ。幸い尾根に出るまでは、谷合の雑木林だ。緩登路にくわえ木々の遮光効果もあって、思いのほか渴きに苦しまない。ときおり小梢の隘路を抜けるさわやかな風が肌をかすめると、何名かの歓喜の声が洩れきこえる。心地のいい瞬間である。

厳しい山行途上ならば、なぜ自らこんな苦行を選んできたのかと繰り返し自問するところだが、ここではそのような自問の機会など微塵とてない。終始安穩たる登行路だ。

尾根に出てしばらくすると五合目展望所に到着する。道々山を戴く赤磐の平野が日差しに照らされ、また北方の山々が遠望できる。みな、茶や菓子を口に束の間の休息を愉しんだあと、山頂を目指しあらためて登山靴のひもを締める。

シイ、ヤブツバキなどの天然林のトンネルを抜けてから急登を越え、そして下りにでると、その向こうに鬱蒼とした熊山のいただきが見える。まもなく八合目である。二つ井戸という水場を過ぎるとやがて道は分岐する。右へ行けば熊山山頂ということだ。鳥居をくぐり、苔むした備前焼の狛犬に出迎えられ、正面にある切妻造りの拝殿に頭を垂れる。地図によればここが山頂ということだ。が、本来の山頂はこれより東に500メートルほど隔たった二等三角点埋設の地が正式の山頂であるという。個人的には三角点踏破を目指したいところであったが、単独ではないから無理はいえぬ。



小休止ののち、鳥居正面の参道をくだって熊山遺跡へと足を急がせる。五分程度の道のりである。数多の五輪塔、石仏、奈良時代の造作とは思えぬ端正な石積みの遺構を眺めながら、南の展望広場で大休止をとる。

展望は頗るよい。静謐と雄大さを兼ね備えた吉井川が印象的だ。その流域の耕地の開けた田園風景がまた美しい。土壌と気候風土に恵まれた流石は「晴れの国」である。

ただ、遠景がかすんでいた。重力のある空気は湿気を含み、それがため内海にうかぶ小豆島は茫乎としてあざやかさを欠いていた。四国もみえるということだったが、それを視認することはできなかった。

帰りは、熊山神社手前を西方へとつづく弓削ルートをつかい下山。万富駅に隣接する麒麟ビール岡山工場への見学にむかう。一部の人にとってはこれが主目的である。

黄金色の液体が脳裏にうかんで消え、消えてはうかぶ。ガイドの女性からビールの製造についてレクチャーを受けるが、みな渴望の色がにじみ出ている。ホップの香しいよく冷やされたあの黄金色で少しでも早くのどを潤わせたい。と参加者たちはそう思っていた。しかし、副次的であったはずの「もろみの自重だけで自然に流れ出してくる麦汁を使用した一番搾り」等の製法説明と、そこに要した時間、そして何より「山」は、このあと提供された芳醇なうまいビールをより一層引き立たせてくれる役割を担った。至福の一杯であった。

帰路、ほろ酔い加減で電車で揺られ、年の離れた岳友と肩をならべ山の話をしる。見聞がひろく懐が深い。山男らしく日に焼けた皺のふかい笑顔で多くを語ってくれた。会には様々な人がいて、みなそれぞれに自分がないものを持ち合わせている。さらに交流を深め視野を拓けたいと思った。そして会に所属しなければ得ることのなかった充実感を富に感じるのだった。

リーダーの和田さん、サブリーダーの砂川会長はじめ、同行の皆様大変お世話になりました。御礼申し上げます。

■高御位山縦走 歩荷トレ

- 日 程 : 6月8日(土)
- 参 者 加 : L赤木 SL森本 黒本 島谷 安田
- 行 動 記 録 : JR 曾根駅 9:15 発～豆崎登山口(9:25 着)～地徳山(10:10 着)10:20 発～百間岩(10:50 着)11:00 発～鉄塔(11:40 着)12:00 発～別所中池(12:10 着)～高御位分岐(13:35 着)～桶居山(14:05 着)14:15 発～佐土登山口(15:15 着)～JR 御着駅(15:40 着)

◆大満足の桶居山トレ

島谷

前日の雨の影響で山行実施が危ぶまれましたが、この日の朝は曇天で肌寒いくらい。歩荷トレには最適な日になりそうで、意気揚々と曾根駅をおりました。豆崎からの急登は足運びがしやすいよう登山道に段が掘ってあり、これは高森ボランティア活動のおかげでしょう。滑るようなこともなく地徳山まで行けました。その頃には晴れ渡り青空が気持ちよく、小豆島、四国までよく見えました。



百間岩を過ぎ別所分岐で、西方向へルート変更することに決めました。予定ルートの鷹ノ巣経由桶居分岐から北へ入った道は、前日の雨でかなりぬかるんでいることが予想され、新春トレの逆コースを進むことにしたのです。近道になりそうに思いましたがそんなはずはなく、地図によると、距離は同じくらい、おまけに下道まで下りきってから桶居山めざしの登りで、まさに「トレーニング」でした。気温が上がり、自分一人で歩いていたなら「どこで引き返そうか」と気持ちがなえるところですが、皆、夏のアルプスをめざしての歩荷トレで、「しんどい」とか「おりたい」とか発するわけもなく黙々と歩きました。休憩時は少人数なので誰が話しても皆が答える感じで、楽しい小休憩を通常より回数多くとっていただき歩ききることができました。暑い、しんどいトレーニングでしたが、終わってみれば大満足の山歩きでした。

《おまけ》

御着の村の中で、黒い炭板塀の「都市景観重要建築物」の家がありました。

お兄様お二人「♪粋な黒塀 見越しの松に あだな姿の洗い髪♪死んだはずだよお富さん♪生きていたとはお釈迦さまでも・・・♪」「知っとおやろ？春日八郎や」

娘三人「黒兵衛さんとお富さんの歌やね」・・・。え？ちがう？

「黒塀の上から、松がのぞき、お富さんがお風呂上がりの粋な姿でいる」そうです。

賢くなりました。

■初めての山歩き教室・実技4回目

- 日 程：6月2日(日)
- 参 者 加：サポートL須増 SL瀧原 尾内 垣内 木村 島谷 砂川(延) 教室生19名
- 行動記録：市ノ池 10:15 発～尾根分岐(10:55 着)11:00 発～鉄塔下(12:05 着)12:15 発～市ノ池(12:45 着)

◆初めての山歩き教室での学び

宗佐

6月2日(日)例会と清掃登山に参加しました。

例会では会長さんから今年の受講生と紹介していただきました。

山行案内では、初心者の人、上級者の人と色々なプランが用意されていて、これからの山行きの夢が膨らみました。

最後に山遊会賛歌を全員で合唱し会が終了しました。例会の後、清掃登山がありました。今回、私たちは、清掃活動は行なっていませんが、今度参加できたらと思いました。

この日は、一日中曇り空でむし暑い日でした。山には、ツツジ、ササユリ、白い小さな花が行く道に咲いていました。今回は登りで疲れない歩き方を学びました。出した足と同じ側の手を同時に出すと足に体重が乗りやすく歩きやすいことと、歩幅は小さくとり、息は吐きながら登っていくことです。私は、リーダーのすぐ後ろについて歩き方を見ながら進みました。一歩ずつゆっくりと足裏全体で踏みしめながら歩き、手も足も使って足の置く所を考えながら登っていきました。

百間岩の所では、急な坂の降り方を学びました。体を低くして岩の形を見て足の置き場が低く平らな所を探して降りていくことです。リーダーの後ろについて足の運び方を見ながら斜め斜めに降りていきました。百間岩は思っていたより、スムーズに降りることができてびっくりしました。百間岩の下から今日歩いた山の尾根をながめて、いつもなら途中で足首が痛くなり足が進まなくなって足を滑らすことが多かったのに、今日は最後まで同じペースのまま歩くことができました。指導して同行して下さったリーダーはじめ皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

今日学んだ歩き方をマスターして大きな山にも登れるよう頑張りたいと思います。



■全国一斉クリーンハイク・統一集会

- 日 程：6月2日(日)
- 集会場所：記念碑台・六甲山ビジターセンター
- 参加者：澤田(律) 三木(悦)
- 行動記録：鶴甲登山口 9:50(10:00 発)～油コブシ山頂 11:50～記念碑台(12:15 着・昼食)～統一集会 13:00～13:30(13:35 発)～アイスロード～六甲ケーブル下(14:35 着)

◆クリーンハイク・統一集会参加報告

澤田(律)

日本勤労者山岳連盟は、1974年から全国の地方連盟・会・クラブに清掃登山・クリーンハイクを呼び掛け、毎年6月(東北、北海道は7月)の第1日曜日を全国一斉の清掃登山・クリーンハイクの日として取り組んでいる。今年で46回目を迎えると言う。

今年は24会・289名の参加者により、清掃登山・クリーンハイク・統一集会が実施された。

テーマは「全国の山からゴミをなくすため清掃登山・クリーンハイクを実施・成功させよう」のアピール文が採択された。

主な内容は

1. ゴミは山に捨てないようにし、持ち帰りましょう。
2. 登山者・ハイカーだけでなく、一般旅行者、外国の登山者にも声をかけ、ゴミの持ち帰りを呼び掛けましょう。
3. トイレの問題も深刻です。携帯トイレをまず携帯し、利用することで自然への負荷を減少させましょう。
4. すべての登山者・ハイカーが、山と緑の番人、山岳自然を守る番人としての自覚を持ち、山歩きを楽しみましょう。
5. 山岳自然破壊にも関心を持ち情報を報告してください。

私たちはゴミを持ち帰ったり清掃登山を実施しているが、一般の登山者に声をかけたり、携帯トイレを持参する等はできていない人が多いと思う。これからの課題だろう。

■高森ボランティア活動

- 日 程：5月18日(土)
- 場 所：阿弥陀墓苑から豆崎合流点
- 参加者：荘所 舂賀

◆活動報告

荘所

事前の調査結果から阿弥陀墓苑登山口から高御位山への縦走路は最近、歩く登山者が減っていることもあり、草、木枝がかぶさっている状況になっており、国道・豆崎交差点から上がるルートとの合流点までの草刈り、枝払い作業を行った。